

安心院氏と竜王城

縄文会 会員 佐藤 圭司

(1) 安心院氏の起源

安心院氏は宇佐大宮司家の庶流（父が認知した子の系統）でしたが、宇佐宮武士団の中心的勢力として最も活躍しており、大宮司職にも補任されています。

宇佐大宮司家は、源平時代には平家を支持し中でも宇佐公通は中央にも名が知られておりました。その公通の孫の公成に公邦・公栄の兄弟がありました。

公栄は、公朝とも五郎とも号し安心院殿と称しました。

(2) 安心院に地頭職として補任

文応元年（1,260）公栄は公泰に宇佐大宮司職と名田畠（安心院庄？）を譲与しました。安心院庄は宇佐神宮領として荘園化していたので公泰は宇佐宮武士団の統領としてここに入ったと思われます（地頭職）。

公泰 …… 安心院庄の地頭職

安心院庄は、妻垣・荘・上荘・新原・木裳・下市・折敷田・上市・古市・大仏・竜王・大口田・松本・板場・東椎屋・萱籠の16ヶ村でした。

が、この内 荘・上荘・新原・木裳は新開庄とも言われていました。安心院庄・新開庄はともに接しているので、新開庄とも多少の出入りがあったと考えられますがハッキリとしません。

いずれも宇佐神宮領なので、宇佐大宮司に補任されていた公泰の時代は新開庄も勢力範囲だったと思われます。



(3) 安心院氏誕生、竜王城（神楽岳城、臥牛城）築城

正安元年（1,299）公泰は、文永・弘安の役（1,274～1,281……博多湾に蒙古が攻めてきた）後、再び蒙古の来襲を恐れ、安心院に堅固な城地が欲しいと宇佐八幡宮に祈願しました。

満願の日の暁、遙か南の竜王山の頂で経津主神（ふつぬしのかみ）が神楽を舞う夢を見て、これぞ神のお告げと此処に城を築き神楽岳城と称し、上市に館を構え名を安心院氏と改めました（この城を地元では臥牛城とも言っていたそうです）。

安心院氏系図

公成→公栄（公朝・五郎）→公泰→公康→公宣→公弘→公基→公重→公定→公正（麟生）→公胤（千代松丸）

(4) 安心院氏の安泰

この城は、この地方の要で要害堅固なために多くの武将から借り取られています。



龍王城の絵図（細川法香氏所蔵）新・宇佐ふるさとの歴史より

その一つに、建武3年(1,336)豊前城井郷(福岡県みやこ町木井馬場)の宇都宮冬綱が安心院地方を支配し、子の家綱が入城し神楽岳城を竜王城と改名しました。

理由は、宇都宮氏の居城が神楽城だったので。

以来、安心院氏には泰平な世が約300年ばかり続きました。

(5) 安心院氏の滅亡

天正10年9月(1,582)安心院公正(麟生)・公糺(千代松丸)親子が中国の毛利氏と内通のうえ、日向国で島津軍に大敗し勢力の衰えた大友宗麟に叛旗を翻しました。

大友方は、妙見岳城主・田原親盛を大将に宇佐郡衆が攻め込んで来ましたが、竜王城は堅固な構えでそう簡単には攻められません。

そこで兵糧攻めを考え、城を遠巻きにして様子を見ましたが安心院氏はびくともしません。

何故かと調べてみると、竜王城周辺の者達が安心院氏に同情し、ひそかに援助していることが分かりました。

一計を案じた大友方は、翌年1月和睦を持ちかけ安心院氏と手を握り竜王城を開城させました。公正は責任をとり自決しました。が、この和睦はどうもおかしい、騙されたと覚った安心院公糺(千代松丸)は、天正11年9月(1,583)日田方面に落ちて行くところを萱籠中尾の山中で、佐田氏の追っ手により鉄砲で撃たれ死亡し安心院氏は滅亡しました。

※安心院氏が地頭・豪族として栄えたのは、正確には、9代・323年間、竜王城には9代・284年間の在城でした。



妙庵寺

細川幸隆公御廟

(開廟:年に一度12月1日)

(6) 竜王城の廃城

その後この地方を治めたのは

- ・黒田孝高(よしたか)……天正15年(1,587)黒田孝高が中津城主となり、慶長5年(1,600)に筑前博多へ移りました。
- ・細川忠興……慶長5年(1,600)関ヶ原の戦いの功績で、細川忠興が中津城主となるや竜王城を新しい構想で城造り(改築)しました。
- ・慶長8年(1,603)忠興の弟・与八郎幸隆が1万石で竜王城主となりましたが在城5年で死亡しました。……今も墓が妙庵寺にあります。

その後、長岡好重・重政親子が城代を務め、寛永9年(1,632)細川氏が肥後熊本に移るまで続きました。

- ・松平重直……寛永9年(1,632)細川氏の後、小笠原一族の松平重直が3万7千石で竜王城主となりました。(当時の宇佐郡の東部と豊後高田方面)

寛永16年(1,639)松平氏が高田城に移ってから竜王城は廃城となりました。

※竜王城は、正安元年(1,299)安心院公泰が築城してから廃城となる寛永16年(1,639)まで実に339年間も続きました。



千代松丸の墓